



遊々の森 「カムイコタン歴舟の森」で 見られる動植物たち

遊々の森「カムイコタン歴舟の森」には、
たくさんの樹木や野生生物たちが暮らしています。

「カムイコタン歴舟の森」は、大きな木が生い茂る森林で、急峻な地形が多く見られますが、広場のある山すそや尾根付近ではなだらかなところもあり、所々に小さな沢も流れています。森林はたくさんの木々や草花が集まってできています。これらの木々や草花も生えている場所がちがうと種類も違ったりします。例えば、日光がよく当たるところや薄暗いところ、水が流れているところ、水の少ないところ...などなど、といった具合です。

このように環境の違いが多くなると、見られる植物の種類も多くなっていきます。また、多くの動物も色々な環境を生活の場として利用しています。ここでは「カムイコタン歴舟の森」で見られる動植物を紹介します。



森林にすむ
動植物を
調べてみよう!!

Check



遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の樹木

しんようじゆ
針葉樹

●**トドマツ (マツ科)** / トドマツは歩道沿いや林内でよく見られる木の1つです。人工林でも約50年前に植えられて、大きいものは樹高30m近くまで育っています。種は秋に球果 (松ぼっくり) になり、上向きにつきます。



●**キタゴヨウ (マツ科)** / キタゴヨウは歩道沿いの尾根付近でところどころに見られます。北海道では南部の太平洋側に見られます。名前のとおり、1束5本 (枚) の細長い葉がついています。束の部分は葉っぱではなく枝が変形した短枝 (たんし) と呼ばれる部分です。種は秋に球果 (松ぼっくり) になります。

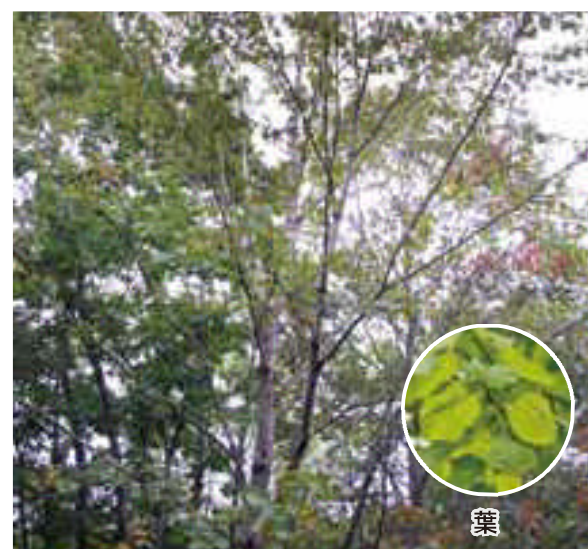
●**イチイ (イチイ科)** / 歩道沿いに僅かに見られ、北海道ではオンコと呼ばれることもあります。エゾシカが好んで樹皮を食べます。種は小さな果実が秋に赤く熟します。

遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の樹木

こうようじゆ
広葉樹

クルミの実

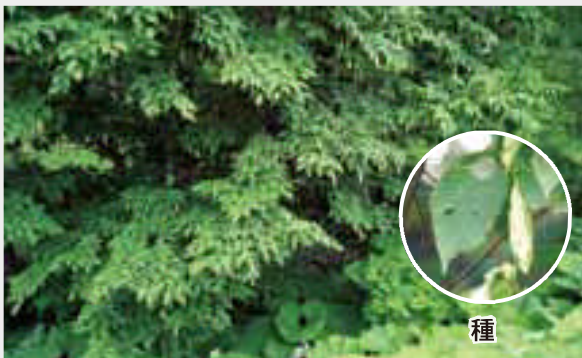
●**オニグルミ (クルミ科)** / やや湿った場所に見られる樹木で、コタン広場でも見られます。葉は、複葉 (ふくよう) に区分されます。種は秋にクルミが木から落下します。クルミはリスやネズミのえさになります。



葉

●**ウダイカンバ (カバノキ科)** / 歩道や稜線の車道周辺で見られます。若いときの樹皮は横方向に筋が見られ、やや光沢があります。葉っぱはハート型で、種は9月ごろたくさんの小さく軽い種を付けた細長い果穂 (かほ) がなり、風で運ばれます。

遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の樹木



●**サワシバ(カバノキ科)** / 沢沿いや歩道周辺の斜面に多く、稜線の車道周辺でも見られます。葉っぱは細長く、たくさんの葉脈が入っています。種は9月ごろ数十個の種が房状(ふさじょう)になり、種の入っている袋の先は鋭くとがっています。



●**ミズナラ(ブナ科)** / 林内の尾根付近や斜面でよく見られ、歩道沿いには直径1m程度の大木も見られます。種はドングリが秋になります。リスやネズミ、ヒグマなどが冬を越すための重要なたべものです。



●**ハルニレ(ニレ科)** / やや湿った場所や斜面の下に見られ、樹高は20~25m程度。樹皮はエゾシカが好んで食べます。種は6月ごろに翼のついた翼果(よくか)がなり、風で運ばれます。また、管理道沿いには、枝がコルク質の翼をつけるコブニレもみられます。



●**オヒョウ(ニレ科)** / ハルニレとよく似ていますが、葉っぱの先が3列ぐらいに裂けたりします。種は6月ごろに翼のついた翼果(よくか)がなり、風で散布されます。この木も、エゾシカが好んで樹皮を食べる樹木の1つです。



●**ホオノキ(モクレン科)** / 歩道や稜線沿いに見られ、40cm近くの大きな葉っぱが枝先にかたまっています。初夏には白い大きな花を咲かせます。種は秋に袋果(たいか)とよばれる房がたくさん集まった集合果になり、この袋果が裂けで独特の香りがする赤い実が出てきます。

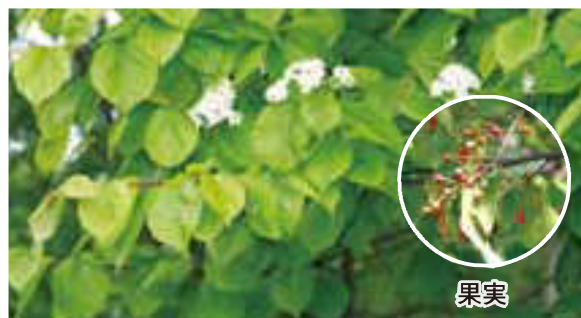
●**カツラ(カツラ科)** / 沢沿いの斜面、やや湿った場所や斜面の下に見られ、太さ1m以上の大木も見られます。樹高は30m近くまで生長します。秋にはハート型の葉が淡いピンク~黄色に紅葉し落葉します。この時期のカツラの木からは甘い香りがします。種は秋に小さな鞘(さや)の中に、小さく軽い種子がたくさん風で運ばれます。





結実

●**エゾヤマザクラ (バラ科)** / 林内などで見られ、春に淡いピンク色の花を咲かせます。種は小さな果実がなり、最初みどり色の実が赤く色付き、初夏ごろ黒紫色に熟し、種は鳥に食べられ運ばれていきます。花がきれいなことから公園などによく植えられています。



果実

●**アズキナシ (バラ科)** / 林内などで見られ、6月ごろ白い花を小さな房状につけます。葉は先がとがり縁には細かな切れ込みが見られ葉脈は直線的です。種は小さな果実が秋に赤く熟します。



果実

●**ナナカマド (バラ科)** / 歩道沿いや頂上広場などで見られます。初夏、枝先に白い小さな花を房状に付け、葉は複葉(ふくよう)に区分されます。種は小さな果実がたくさん集まり秋に赤く熟し、種は鳥に食べられ運ばれていきます。また、秋には真っ赤に紅葉し、街路樹などとして植えられています。

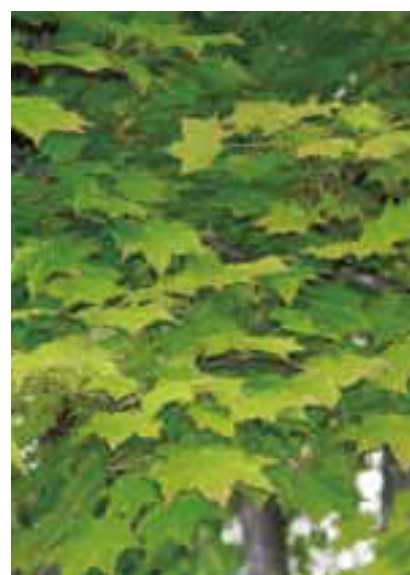


●**キハダ (ミカン科)** / 歩道沿いなどに見られ、稜線の車道沿いには大きな大木も見られます。樹皮は厚いコルク質が縦に裂け、触ると他の木よりも柔らかく感じます。樹皮の内側は名前の由来となっている黄色い部分があり、とても苦く昔から薬に使われてきました。葉は複葉(ふくよう)に区分されます。種は小さな果実が枝先になります。秋に黒く熟し、鳥に食べられ運ばれていきます。



●**ハウチワカエデ (カエデ科)** / 林内の斜面や歩道沿いでよく見られます。葉は7~11列に切れ込み、葉の先には細かな切れ込みが見られます。秋には紅葉し、赤く色付きます。種は秋に翼のついた翼果(よくか)が成熟し、風で運ばれます。

●**イタヤカエデ (エゾイタヤ) (カエデ科)** / 林内の斜面や歩道沿いでよく見られ、葉は7列ぐらいで浅く切れ込み、葉の先の細かな切れ込みは見られません。秋には紅葉し、黄色く色付きます。種は秋に翼のついた翼果(よくか)が成熟し、風で運ばれます。また、葉の切れ込みが5列でイタヤカエデより浅く、春先に芽吹いた頃の葉が赤みがかるアカイタヤも見られます。



遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の樹木

こようじゅ
広葉樹

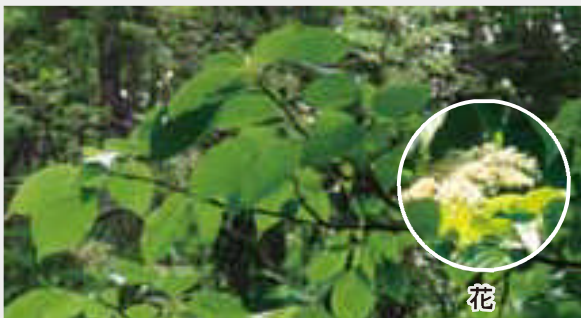


種

●**ヤマモミジ (カエデ科)** / 林内の斜面や歩道沿いでよく見られます。葉は7~9列ぐらいで深く切れ込み、葉の先に細かな切れ込みが見られます。秋には紅葉し、赤く色付きます。種は秋に翼のついた翼果(よくか)が成熟し、風で運ばれます。



●**シナノキ (シナノキ科)** / 林内の斜面や歩道沿いで見られます。葉はハート型をしています。種は羽のような苞葉(ほうよう)と呼ばれる葉が付いたまま秋に成熟し、この苞葉により風で運ばれます。

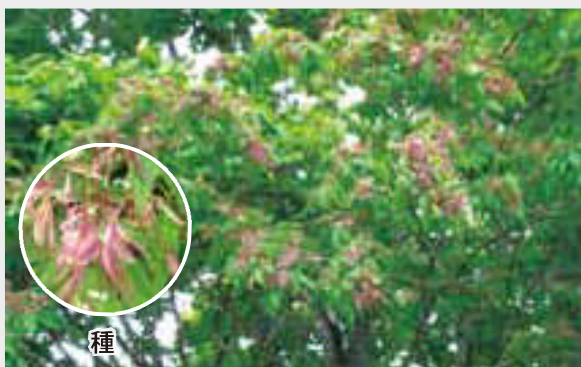


花

●**ミズキ (ミズキ科)** / 林内の斜面や歩道沿いで見られます。初夏、枝先に白い小さな花をたくさん付けます。葉は先のとがった卵形で細かな切れ込みは見られません。種は小さな果実が赤く色付いたあと、秋に黒く熟し、鳥に食べられ運ばれていきます。

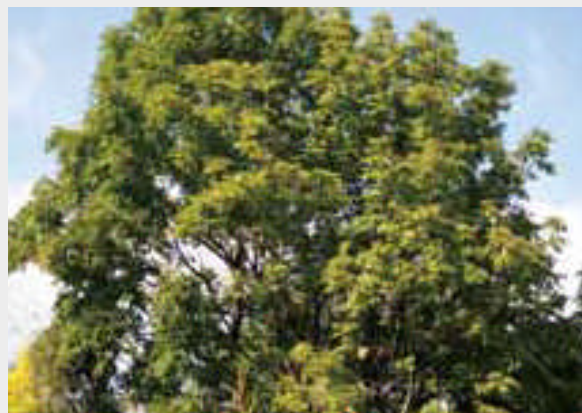


●**ハリギリ (ウコギ科)** / 歩道沿いや斜面の下などで見られます。幹には針のように鋭いトゲがあります。大きくなると樹皮は深く縦に裂けます。葉は大きく手のひらのような形をしています。種は小さな果実が丸くたくさん付き、秋に黒く熟し、鳥に食べられ運ばれていきます。



種

●**アオダモ (モクセイ科)** / 歩道沿いや沢沿いの斜面などで見られます。葉は複葉(ふくよう)に区分されます。種は枝先に細長い翼をつけた種子をつけ秋に成熟し、風で運ばれます。バットの材料などに用いられます。エゾシカが好んで樹皮を食べます。



●**ヤチダモ (モクセイ科)** / 湿った場所や斜面の下の方に見られ、幹も真っ直ぐで樹高も30m近くの木が見られます。葉は複葉(ふくよう)に区分されます。種は枝先に細長い翼をつけた種子をつけ秋に成熟し、風で運ばれます。

遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の樹木

稚樹・幼樹

「カムイコタン歴舟の森」では大きな木々がたくさん見られます。ここまで生長するには何十年もしくは百年以上の歳月が経っています。でもすべての木々は芽生えたころはとても小さく、これから先、長い年月をかけて、周りの草木と競争し、雪や風、寒さ、暑さ、乾燥といった自然現象や虫や動物、人間による被害をくぐりぬけ生長していきます。芽生えて間もない木、少し生長した木のことを稚樹や幼樹と呼びます。「カムイコタン歴舟の森」では、頂上広場やコタン広場の周辺、歩道沿いで色々な種類の稚樹や幼樹が見られます。



遊々の森「カムイコタン歴舟の森」の草本など

「カムイコタン歴舟の森」ではキタゴヨウやミズナラのように大きくなる樹木のほかに、ツツジの仲間のようにあまり大きにならない木やたくさんの草が見られます。このような植物は草本類そうほんるいや低木類ていぼくるいと呼ばれ、草本類には、きれいな花をつけるものや希少性のある種類りょうせんも見られます。また、稜線の車道沿いやふもとの道路沿いには、もともと北海道に自生していなくて、外国から人によって持ち込まれた外来種がいらいしゆと呼ばれる植物も見られます。



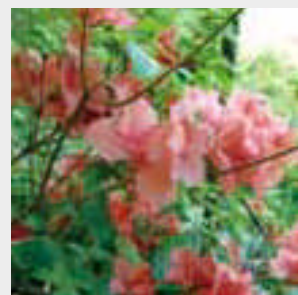
コヨウラクツツジ (6月)



ムラサキヤシオ (6月)



ハクサンシャクナゲ (8月)



ヤマツツジ (6月)



エゾレイジンソウ (6月)



エゾエンゴサク (4月)



コンロンソウ (6月)



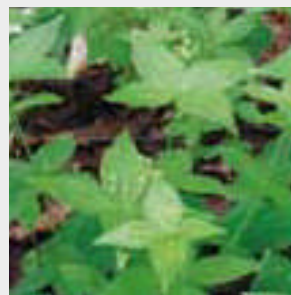
(6月)



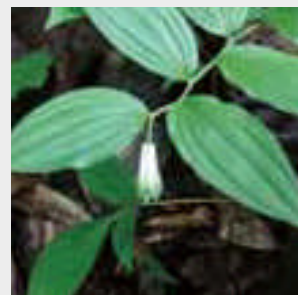
ジンヨウイチヤクソウ (6月)



クルマバソウ (6月)



ミヤマキヌタソウ (6月)



ホウチャクソウ (6月)



ツクバネソウ (6月)



ユキザサ (6月)



ノビネチドリ (6月)



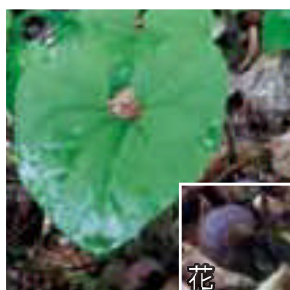
コケイラン (6月)

希少種

数が少なくめずらしい種類です。



フクジュソウ (6月)



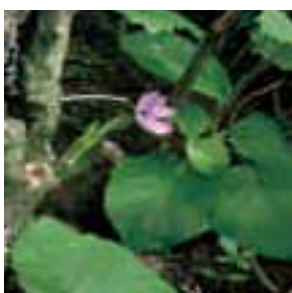
オクエゾサイシン (6月)



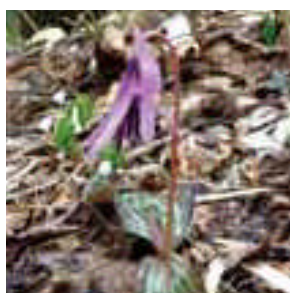
トカチスグリ (6月)



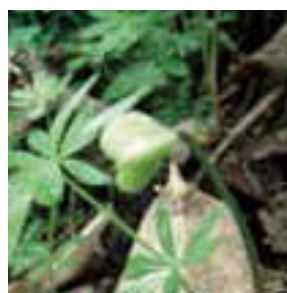
クリンソウ (6月)



エゾオオサクラソウ (6月)



カタクリ (4月)



カタクリの実 (6月)

外来種

外国から持ち込まれた種類です。



ムシトリナデシコ (8月)



オニノゲシ (8月)



ヒメジョオン (8月)

美しい花たちが咲き誇る「カムイコタン歴舟の森」